

第30期<2023.10.1~2024.9.30>活動報告

■ 1年間のまとめ

第30期については次の5つの課題を掲げて活動しました。

- 1) 歴史的建造物の保存・活用に対する所有者支援のあり方を整理します。
- 2) 歴史的建造物や再生建築の価値を所有者や市民に普及・啓発します。
- 3) 国や地方行政機関を含む文化財関連団体との連携を図ります。
- 4) NPO法人の運営能力や事務能力を高めます。
- 5) 「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を事務局団体として引き続き開講します。

コロナが落ち着いてきたこともあり会としてリアルな見学会や勉強会を企画運営して来ましたが、会議などでZOOMを併用することが一般化し、遠方の会員との意見交換にも活用される様になりました。

奥田家(分家)と史跡山科本願寺跡公園の管理事業の受託は3年目に入り、地域との関係も徐々に広がっています。奥田家(分家)の座敷を会場とした会議やイベントも増加しています。しかし、史跡公園の草刈り体制の整備が必要です。

■ 部会等の活動報告

(1) 利用相談部会+古材文化の会設計室

- ①利用相談部会は、古い建物の再生や古材の利活用などの相談に応じる部会で現在14名の部会員で構成しています。利用相談の依頼に対して毎月の定例会で協議し、「古材文化の会設計室」と共同して対応を行っています。
- ②2024年度 古材文化の会設計室 設計監理業務
2023年7月~2024年3月 京都市左京区 旧住宅洋館離れ(洋館・市指定) 調査業務
- ③定例会では、利用相談物件の管理を行いながら、それぞれの相談物件について意見を出し合い、担当者を選定して現地確認や相談者との面談など、適切な対応を検討しました。
- ④利用相談部会員を対象に木材加工工場の燻煙乾燥機の見学会を実施。

(2) 企画部会

- ①企画部会は一般市民が気軽に参加できる企画を中心に実施しています。
当会は京都市より奥田家分家および史跡山科本願寺の管理委託を受託しており、建物を生かした講座や山科本願寺の歴史や山科を知るまちあるき等を開催しています。
 - ・奥田家分家敷地で「お正月に飾ろう、しめ縄飾り」(2023.12.10)
 - ・山科このまちあるきを2回開催。(2023/3.24、8/22)
 - ・生け花教室を奥田家で開催。(2024/2/24、5/18、7/7、9/28)
 - ・山科一斉美化活動で史跡公園の草抜きに会員10名が参加(2023/6/2)
 - ・甲乙塾「中門の解体修理」(2023/10/1、29、11/11、12、12/2、3)
ベンガラ塗り(6/2)
- ②古材ネットは企画部会に所属する6名のメンバーで運営しています。一般の方の依頼で古建具など古材の引取りを行い、古材文化の会MLで「古材市ニュース」の発信、古材市やぶんぶんカフェの店頭販売等で新たな使い手へと橋渡しをしています。
 - ・上京区の妙覚寺境内で行われた西陣ピックに出店(2023/11/12)
 - ・伏見区横大路の藤田家倉庫前で「春の古材市」を開催(2024/3/16、17)

- ・主な引取り（古材レスキュー）は12件、その他、知人を通して古材など譲り受けた。
- ・フェリシモ社企画「廃材活用に関するプロジェクト」への参加
2023年度ハッピーキャップスチャリティ基金より古材ネットへ活動支援金を受けた。
- ③ぶんぶんカフェ企画：ぶんぶんカフェは、歴史ある建物の保存活用を応援するコミュニティカフェとして北條さんと小出さんが運営されています。歴史ある建物の良さを生かして気軽に交流できる場づくりに取り組み、会主催行事も企画運営しました。
 - ・「京町家活用事例紹介・どうする実家町家」（2023/11/25）
 - ・「お茶あそび・暮らしの中で気軽に楽しむお茶のひとつ」（2024/3/30）
 その他、文化財マネージャーの交流の場として、京都モダン建築祭文マネ意見交換会（2023/12/10）、文化財マネージャー演習後の会合（2024/7/20）、KOMO落語研究会の会合（2024/7/28）でぶんぶんカフェを会場としました。

（3） 見守る部会

- ①見守る部会として発足して7年を経過しました。現在12件の建物を「見守るネット」に登録いただき、「修理」「活用」「継承」などそれぞれの抱える課題について、担当マネージャーを中心に対応を行っています。また、見守るネットに未登録の建物も「大切にしたい建物リスト」に挙げて活用などの可能性を探る取り組みを行い、すそ野を広げるようにしています。
- ②伏見区藤田家は、2022年「京都伏見珈琲 権十郎café」として生まれ変わり、ご近所の方や古民家ファンに親しまれています。2023年11月には地元の方の案内で横大路のまち歩きと権十郎caféを訪ねるイベントを行いました。
- ③下京区田中家では、「テーマ演習」の場として学ぶ、京都市立芸大の学生たちの作品展と建物の見学ツアーが行われました。日本画専攻の学生による水墨画の襖絵や、染織専攻の学生が制作した座布団も展示されました。
- ④南区長谷川家では、京都工芸繊維大学3回生の演習の場として、実測と活用提案をしていただきました。歴史的な環境を活かした案や地域の人たちの居場所になるようなユニークなプログラムなど、柔軟な活用提案に大いに可能性を感じました。
- ⑤左京区杜若家では、惟喬親王お手植えと伝わるカキツバタが群生しています。「かきつばた応援隊」を結成し、建物の保全ボランティアを行っています。2023年6月にはホテル鑑賞保全ボランティアを組み合わせイベントを行いました。
- ⑥北区久保家は、鴨川の源流、雲ヶ畑にあります。春は花山椒の佃煮づくり、初夏にはお茶づくり、実山椒摘みという日常のサポートをしながら、住まいの補修が必要な時には、専門家が相談にのっています。
- ⑦四条畷市田中家は、明治以降に造られた農家型建築で、今後の活用方法と文化財登録の検討を進めています。活用については近くの大学と相談をし、学生が伝統建築と様々な伝統文化を体験学ぶ場として、更には地域の活性化に繋げることを視野に検討が進められています。文化財登録については、歴史ある建物調査室を中心に調査と報告書の作成を進めています。
- ⑧「見守るネット」の地域版の取り組みの一環として、伏見区醍醐地区と南丹市美山町北村地区での取り組みを行っています。

醍醐地区では、地元在住の見守るマネージャーによる「山田家活用フォーラム」の活動サポートを行っています。山田家は古民家相談窓口の他、和楽器コンサートなどのイベントやレンタルスペースとして活用されています。

美山町北村地区では令和5年度に南丹市の委託で、建物の改修時に役立つ「デザインガイド」の素案をとりまとめました。

（4） ヘリテージマネージャーサポート部会

当部会では、古材文化の会主催の「伝統建築保存・活用マネージャー養成講座」と、「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」の修了者のグループKOMO（古材文化の会 伝統建築保存・活用マネー

ヤー会)に登録されたマネージャーの活動支援を行っています。定例会の勉強会やマネージャーの活動発表「KOMOFESTA」の企画運営の他、京都市文化財マネージャー育成講座の運営チームなども担っています。

- ①定例会の勉強会では、活発な活動をされているマネージャーや他団体の方たちに御登壇頂きながら、毎月第3金曜日に開催しています
- ②全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会に参加し、他団体との情報交換などおこなっています。また近畿ブロックでは隔月で会合を持ち、常時非常時の連携などについて協議しています。
- ③KOMOライダーズクラブ(有井代表)では、徳島県と香川県の重伝建地区で地元のヘリテージマネージャーから、地域の歴史や建物の特徴などについて学びました。
- ④古文書勉強会は月に一度、明治期の工事の記録書などを日向前会長の指導で読み解いています。

(5) 歴史ある建物調査室

歴史ある建物調査室(歴調)では、第30期の活動計画として「登録文化財や景観重要建造物の申請に関わる調書作成、また、市町村からの歴史的建造物に係る委託調査を行う」ということを掲げていました。

【登録文化財・その他調査関連】

国登録有形文化財の申請に向けて、大阪府四條畷市の田中家住宅の往訪調査を継続し、実施しました。

【京都を彩る建物や庭園制度】

- ①第29期に引き続き、“京都を彩る建物や庭園(京彩)”制度における令和5年度認定候補建物調査として9件の委託を受け調査に取り組みました。
- ②9月13日に京都市において今年度第1回目の審査会が行われ、9件のうち6件が「認定」建物として認められました。先行調査によって既に昨年中に1件が認定を受けていますので、残り2件については、12月行なわれる第2回目の審査会において諮問されます。
- ③令和6年度の認定調査は、例年同様に京都市文化財保護課より提示を受けた9件について調査に着手しています。このうち1件が所有者側の事情により着手を来年1月以降に遅らせる方向で調整しています。

この点については、来年度以降調査予定のうち2件についての前倒し着手の要請に応じていますので、このうちの先行1件を今年度分に繰り上げるものとして対応しています。

第29期中においては、第13期な京都市文化財マネージャー育成講座を受講した4つの班に対して第12期講座と同様に、演習・修了課題地を“京都を彩る建物や庭園”制度によって既に選定されている建物のなかから提示し、同制度による「認定」を視野に入れた調査・考察作業に取り組んでいただきました。これらの成果のうち、1件については、昨年12月に審査対象となり認定を受け、また1件については、既に提出済みで審査待ちの状況です。残る2件について、審査対象となる報告書のブラッシュアップ作業について、当部会の傘下で組織している「京彩PM班」にて指導しています。

- ④“京都を彩る建物や庭園(京彩)”制度に対する取組みとしては、文化財マネージャーを対象に、同制度の調査への参加を促し、或いは制度の関わりを深めるため、スキルアップ的な機会を設けています。30期では、今年6月に古材文化の会事務局で、“令和5年度京都を彩る建物や庭園・認定調査の報告会”を実施、各調査班毎に考察内容を解説し、また各報告書の閲覧の機会としました。
- ⑤京都を彩る建物や庭園”制度における過去の調査実績については、調査の技術や順応性の向上につながるよう活かすための、アーカイブ化の作業に取り組んでいます。前期につづき、前述の過去12年間の全調査について考察や報告書をフォーマット化し集約するまで完了しています。

今後は、如何にこれらのアーカイブを今後の活動に活かすかが課題となりますが、一昨年より、京彩PM班の呼びかけのもと、京彩調査参加経験者による“文化財マネージャー有志”として参加している“京都モダン建築祭”もそのひとつとして位置付けています。

【京都を彩る建物や庭園制度からの関連と拡大】

“京都モダン建築祭”への参加も関連活動の一つという認識のものに関与しています。

運営母体において“京都モダン建築祭”そのものがまだ3年目であり試行錯誤の段階とも言え、当方の今年の参加規模は昨年までの2年間より縮小しましたが、内部的には、このような機会を重視している文化財マネージャーも少なくなく、“京都を彩る建物や庭園”における考察や協働作業としての活動のスキルを活かすための新たな活動域として形成しつつあります。

(6) 年輪年代学研究所

- ①「年輪年代学研究所」は、使用部材の年輪年代法による年代測定や使用木材の樹種同定を行う研究所です。建築年代の不明な建造物の年代判定や木材同定について所有者等から委託を受けて調査をしています。
- ②30期は、会への調査依頼はありませんでした。

(7) 第14期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）

- ①2024年4月13日「第14期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を開催しました。2024年10月26日に修了式を迎え、受講者36名のうち、全科目を履修した31名が修了しました。第13期の受講者2名が補講を受け修了しました。
- ②HMS部会のメンバーを中心とする運営チームと文マネサポーターが協力し、講座の運営を行いました。